

2021年5月31日
王子タック株式会社

粘着ラベルを構成する表面基材・粘着剤・剥離シートの
種類と特徴をご紹介します。

OKタック クイックガイド

OKタックは王子タックの粘着ラベルの全銘柄を総称するブランド名です。

<目 次>

粘着ラベルとは

| | |
|-------------------|------|
| ◇ 粘着ラベルの構成 | 2 頁 |
| ◇ 表面基材について | |
| －紙基材－ | 3 頁 |
| －フィルム(合成紙を含む)基材－ | 5 頁 |
| ◇ 粘着剤について | |
| －エマルジョン系粘着剤－ | 6 頁 |
| －エマルジョン系粘着剤主要銘柄－ | 7 頁 |
| －主要エマルジョン系粘着剤の性能－ | 8 頁 |
| －溶剤系粘着剤－ | 9 頁 |
| －溶剤系粘着剤主要銘柄－ | 9 頁 |
| －主要溶剤系粘着剤の性能－ | 10 頁 |
| ◇ 主要粘着剤の低温環境適性 | 11 項 |
| ◇ 剥離紙について | |
| －剥離紙の種類と特徴－ | 12 頁 |
| ◇ お問い合わせ先 | |

粘着ラベルの構成

粘着ラベルは一般的には**表面基材**／**粘着剤**／**剥離紙**の3つの構成要素からなり、これらの要素にはそれぞれ様々な種類があります。
用途、使用目的によりこれらの要素を組み合わせ、お客様のご要望にお応えできる製品が生み出されます。

表面基材

表面基材は、様々な**印刷を施して商品価値を高めたり、情報を記録して製品を管理**したりするため重要な構成要素の一つです。粘着ラベルの選定にあたっては、紙系およびフィルム系(合成紙系を含む)を基本に、デザイン性(素材の見た目、機能性、ラベル形状)、色、印刷仕上がり、風合い・質感等によりお選びいただけます。
また、ラベルを使用するのが、屋内か屋外かによっても、耐水性、耐候性等を考慮する必要があります。

粘着剤

粘着剤は、使用用途や商品に貼った時の粘着力に応じて、①**永久接着タイプ**＜汎用・低温環境用・屈曲面／粗面用＞、②**再剥離タイプ**および ③**再剥離・再貼付タイプ**に大別できます。
さらに、被着体の状態(細径のプラスチック管、凹凸のある面、油の付着した面等)、ご使用される環境、ラベルを水洗いして剥がしたい等の使用目的に応じて、最適な粘着剤を選択頂けます。

剥離紙

剥離紙は、貼付前の粘着剤を保護するだけでなく、**耐カール性、寸法安定性、印刷・打ち抜き適性等**、ラベル加工・使用時に重要な役割を果たします。
上質紙系、グラシン系、ポリラミ上質紙系、ポリラミグラシン系、フィルム系の種類がございます。

銘柄名の表示

弊社のタック製品の「銘柄名」は、記号で構成されています。左から表面基材/粘着剤/剥離シートの順に種類や特徴などを表しています。

(銘柄名)

TWF55/P22/U7W



表面基材



粘着剤



剥離シート

表面基材の種類と特徴

表面基材は、紙系とフィルム系(合成紙を含む)に大別されます。

弊社では、王子グループの特徴ある表面基材や、その他の最良の品質を備えた広範な基材の中から、お客様のニーズに合った表面基材を選んでご使用頂けます。

紙 基 材

紙は、その作り方・性状・新たに付与された機能・用途等により、新聞用紙、印刷・情報用紙、包装用紙、衛生用紙および雑種紙等に大別されます。ここでは、粘着ラベルの表面基材として多用される印刷・情報用紙を中心にご紹介いたします。

【印刷用紙】

上質紙

弊社銘柄の例： TWF 55、KWF 70、GWF 55等

木材パルプを主原料として抄造され原紙に平滑処理を施した非塗工印刷用紙です。印刷・加工適性を備えるとともに、筆記適性を有することから広い用途にご使用いただけます。弊社では環境に配慮し古紙70%以上を使用した再生紙を表面基材とする「GWF55」も品揃えしております。

また、米坪40g/m²程度の薄物上質紙は何枚も重ね合わせた場合のカーボン転写適性に優れるため、宅配伝票用等で使用されています。

アート紙・コート紙

弊社銘柄の例：アート73、Nアート73、Nマット55等

原紙上に微細な顔料とバインダー(接着剤)を主成分とした塗料を塗工したのち平滑処理を施した印刷品質に優れる塗工印刷用紙です。最高級の印刷効果を発揮するアート紙と、経済性を重視したコート紙に区分されます。様々な印刷方式に対応できるグロスタイプとマットタイプを品揃えしています。

キャストコート紙

弊社銘柄の例：Nミラー73

微細な顔料とバインダー(接着剤)を原紙上に塗工したのち、塗工層をクロムメッキの施された超鏡面のキャストドラムで密着乾燥させ鏡面を写し取ることで表面が鏡のような超光沢を有する高光沢・高白色の最高峰の印刷用紙です。高級ラベル用途に使用されています。

色物・その他特殊紙

弊社銘柄の例：Aミラー73

原料である木材パルプを染色した色上質紙やキャストコート紙を印刷により着色したパステルミラーを用意しております。その他特殊用途の撥水・耐水紙、ホイル紙、蒸着紙等がございます。

【情報用紙】

情報用紙とは、種々の情報記録方式に適用できる紙をいいます。記録方式は、サーマル方式(ダイレクトサーマルおよび熱転写方式)、インクジェット方式およびレーザー記録方式(電子写真方式)に大別されます。

以下に弊社の情報用紙タックに使われている表面基材をご紹介します。

マルチプリンター用上質紙

弊社銘柄の例： CWF 4 5 EW等

複写機、レーザープリンター、インクジェットプリンター等に幅広く適用する記録紙です。上質紙ベースに表面性や寸法安定性を最適化しており、トナーの定着、プリンター通紙性、カール適性に優れた特性を持ちます。

弊社ではこれらの重要特性を満たすべく表面基材を開発しており、併せて使用する粘着剤についても、複写機やプリンター内部を汚染しないようベタツキ低減を図った粘着剤を選定しております。

感熱紙 (ダイレクトサーマル用紙)

弊社銘柄の例： HE 90、GG 50等

感熱エネルギーによって発色させる記録方式を感熱(サーマル)方式といいます。表面基材に発色層を設け、これが自己発色するタイプをダイレクトサーマルと呼び、この方式に適用する表面基材を用いた製品がOK感熱タックです。高感度、高耐熱、高光沢、などの特徴もつ製品を取り揃え、さらに耐光性や保存性に優れた製品も用意していますので、計量、物流管理用などご要望に応じて選択いただけます。

熱転写用紙

弊社銘柄の例： TKP 80

感熱(サーマル)方式の中で、熱によりインクリボンのインクを溶融転写する方式を熱転写方式といい、この方式に適用する製品がOK熱転写タックです。優れた保存性やくっきりとした高級感のある印字仕上がりとといった特性を活かし、用途を拡大しています。弊社では、上質紙タイプと塗工紙タイプを用意しており、物流管理用などに最適です。

インクジェット用紙

弊社銘柄の例： IJC 35G (マット)、MIJ 51F (光沢)

IJプリンターでの印刷に対応した専用塗工紙。染料インキ、顔料インキ向けで塗工層が異なります。弊社では、紙系のマットタイプとキャストコートの超光沢品や合成紙ベースのIJ用紙をご用意しております。

フィルム（合成紙を含む）基 材

合成高分子物質を主成分とし、溶融してフィルム状に加工して作られます。原料により、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ポリエチレンテレフタレート(PET)からナイロンなど広範な種類がありますが、タックに用いられるのは、フィルムの強さ、加工・印刷適性、外観、使い易さ等から**ポリエチレンテレフタレート(PET)**、**ポリプロピレン(PP)**および**ポリ塩化ビニル(PVC)**フィルムがその主流を占めています。また、ポリプロピレンに無機顔料等の特殊な原料を配合し、フィルム表面に塗工層を形成して製造される多孔質構造の**合成紙**も重要な地位を築いております。

ポリエチレンテレフタレート (PET) フィルム

弊社銘柄の例： **PETC50**、**PETM50**、**PETS50**等
(透明) (マット) (銀蒸着)

ポリエチレンテレフタレートを原料とするフィルムで、通常 PET フィルム、ポリエステルフィルムと呼ばれており、強靱で腰があること、耐熱性があり使用できる温度範囲が広いこと、薬品に侵されにくいことなどから、フィルム市場で最も多く使われています。

特に本製品は表面保護等に用いられるオーバーラミネート用や、易印刷層を設けて印刷を可能にした透明 PET 製品を用意しています。また、グロスタイプや表面を艶消しにしたマットタイプのほか、白色タイプやアルミ蒸着タイプも品揃えています。

ポリプロピレン (PP) フィルム

弊社銘柄の例： **OPPC20**、**PPC50**、**PPS50**等

PET に次いで透明性・光沢・耐薬品性・耐熱性があるポリプロピレンを原料とし、2 軸延伸して作られたフィルムで、通常 OPP フィルムと呼ばれます。オーバーラミネート用のほか、OPP フィルムの表面に易接着層を設けることで優れた印刷品質の PP クリーンタックを設計しました。PET 対比安価なクリアタイプ(透明)、シルバーグロスタイプ(銀艶)を品揃えています。優れたインクの受理性・密着性に加え、耐水性や曲面に対する追従性が良好で、飲料や洗剤容器など広範な被着体に適用できます。

合成紙

弊社銘柄の例： **Nユポ80**、**YG50**等

ポリプロピレンに、無機顔料などの特殊な原料を配合し多層構造になっており、紙に似た外観と筆記適性・印刷・印字適性に加え、フィルムのもつ優れた耐水性・耐久性を兼ね備えていますので、屋外で使用されるポスターや広告にも最適です。例えば、スーパーの魚介類売場や園芸用品売場など、水のかかる可能性のある環境でその特性を大いに発揮します。さらに、屋外看板用にインクジェット用やサーマルプリンターで印字可能な合成紙サーマルまで、広範な製品を品揃えています。

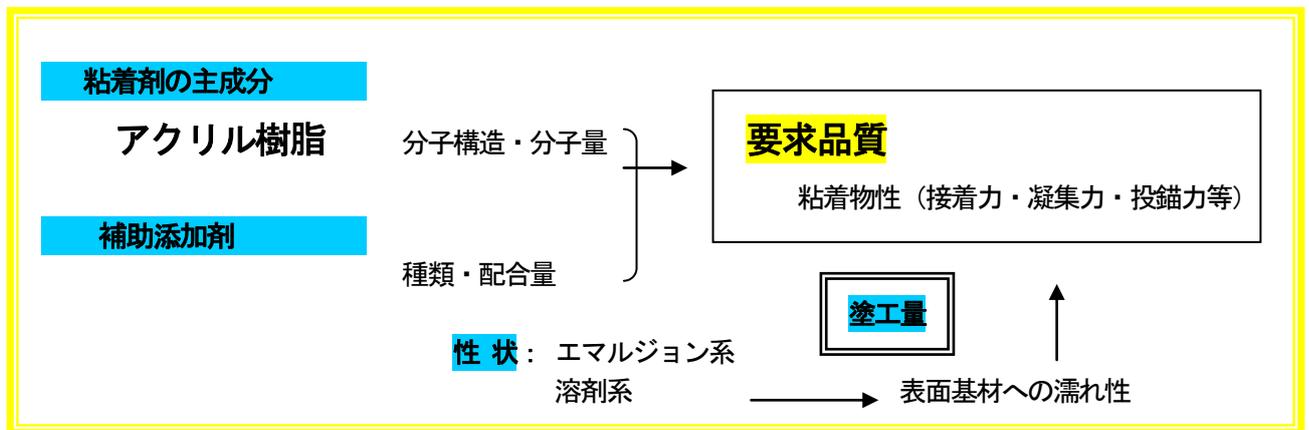
* フィルム基材につきましても、紙基材と同様、**感熱・インクジェット・熱転写記録、レーザー記録適性等の機能を付与した製品**を用意しております。

粘着剤の種類と特徴

粘着剤は、その主成分により天然ゴム系、合成ゴム系、アクリル樹脂系およびシリコン系粘着剤に大別されます。また、その性状により水中に粘着剤成分を分散させたエマルジョン（乳液）系、有機溶剤に溶解させた溶剤系、固型（ホットメルト）粘着剤等広範な分類が成されます。

現在、粘着ラベル用途に広く用いられているのはアクリル樹脂を主成分とするエマルジョン系および溶剤系粘着剤の2種といえます。

粘着剤は、表面基材への濡れ性と被着体への要求に応じた粘着物性（特に、被着体への接着力・凝集力・投錨力等）を満足させる必要があります。これらは、粘着剤主成分の分子構造・分子量、補助添加剤の種類と配合量、さらには粘着剤の塗工量など様々な要素で決まります。



エマルジョン系粘着剤

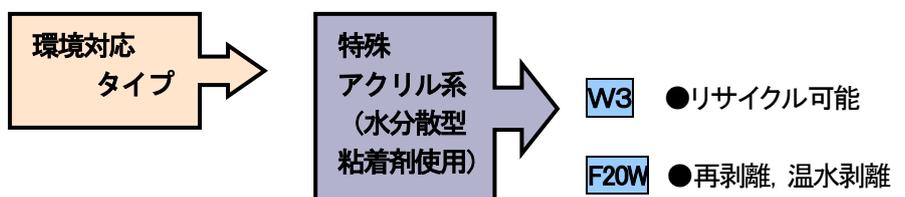
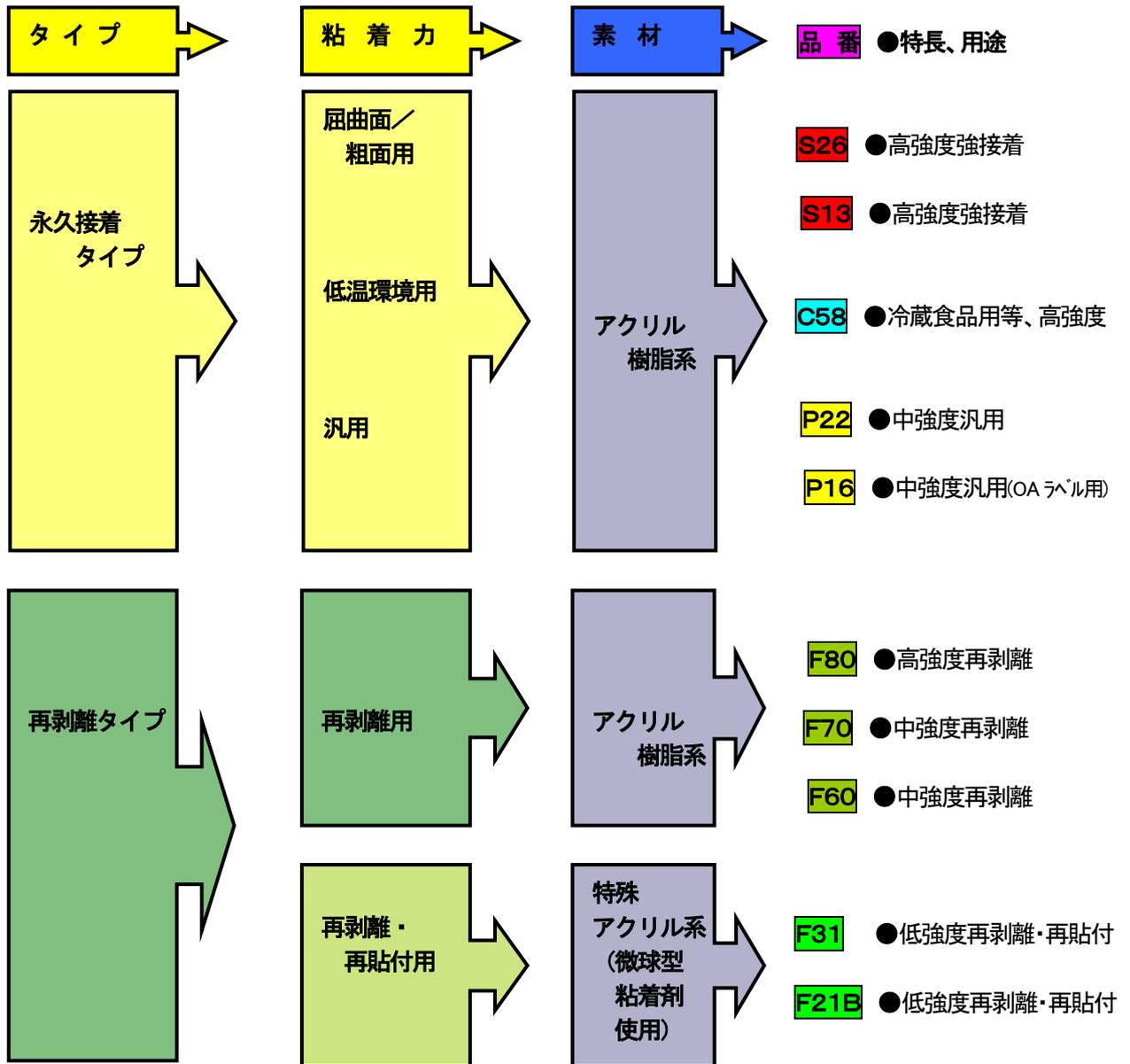
『OKタック』では、粘着剤名の頭文字（アルファベット）で、粘着剤の主な基本性能を表します。

エマルジョン系粘着剤は、有機溶剤を含まない水系の粘着剤であるため、**環境保全・安全性に富み**、すべての表面基材への適用が望まれます。しかし、表面基材との濡れ性の面から、現状では**紙基材を主体**に使用されています。

| タイプ | 粘着力 | 品番 | 特徴 |
|------|----------------------|----|--|
| 永久接着 | 屈曲面/粗面用 | S系 | 曲面、粗面、ポリエチレン等、貼りつきにくい被着体に対しても優れた粘接着性能を発揮します。 |
| | 低温環境用 | C系 | 低温接着性を特徴とし、食品・飲料の他冷蔵保存用に多く使用されます。ポリオレフィン系ストレッチフィルムに対しても、良好な接着性を発揮します。 |
| | 汎用 | P系 | 接着力が強く、貼付後強力な永久接着力が得られる汎用タイプです。幅広い被着体範囲が特徴です。 |
| 再剥離 | 再剥離用 再剥離・ 再貼付用 | F系 | 貼り付けたラベルを、被着体から任意に剥がせる再剥離性が特徴です。被着体の材質・表面強度、使用法（再貼付）に応じて、各種グレードよりお選び下さい。 |

エマルジョン系粘着剤主要銘柄

紙基材用粘着剤の主要銘柄と特長、用途の例を示します。



主要エマルジョン粘着剤の性能

| | | 各種被着体への接着性 | | | | | 各種被着体からの再剥離性 | |
|------|----------|------------|-----|-------|-----|--------|----------------------|---------|
| タイプ | | 永久接着タイプ | | | | | 再剥離タイプ ¹⁾ | |
| 粘着力 | | 曲面／粗面用 | | 低温環境用 | 汎用 | | 再剥離用 | 再剥離再貼付用 |
| 品番 | | S26 | S13 | C58 | P22 | P16 | F80 | F31 |
| 金属 | ステンレス | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／○ | △／◎ |
| | アルミニウム | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／○ | △／◎ |
| 成型体 | PE | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | △／○ | △／◎ |
| | PP | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △／○ | △／○ |
| | ポリカーボネート | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／○ |
| | アクリル | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／○ |
| | ABS | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／○ |
| | 硬質塩ビ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／× | △／△ |
| | 軟質塩ビ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／× | △／△ |
| フィルム | PEラップ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | △／○ | △／◎ |
| | OPP | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △／○ | △／○ |
| | PET | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △／△ | △／○ |
| | ポリスチレン | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／○ |
| | 塩ビラップ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／○ |
| 紙 | コート紙 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／× | △／× |
| | 段ボール | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／△ | △／◎ |
| 木板 | ベニヤ板 | ○ | ○ | △ | △ | △ | -／- | -／- |
| | 化粧合板 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／○ | △／◎ |
| | メラミン塗装板 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／○ | △／◎ |
| ガラス | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○／○ | △／◎ |
| 備考 | | | | 貼付は常温 | | OAラベル用 | 再貼付は不可 | |

1) 再剥離糊の適正は、接着性／再剥離性を表します。

評価方法 ◎:適する ○:予備テスト必要 △:予備テスト必要 ×:不適

* 上記性能は、弊社における評価です。実際の使用に際しては、10頁の留意点を参考にお選び下さい。

溶剤系粘着剤

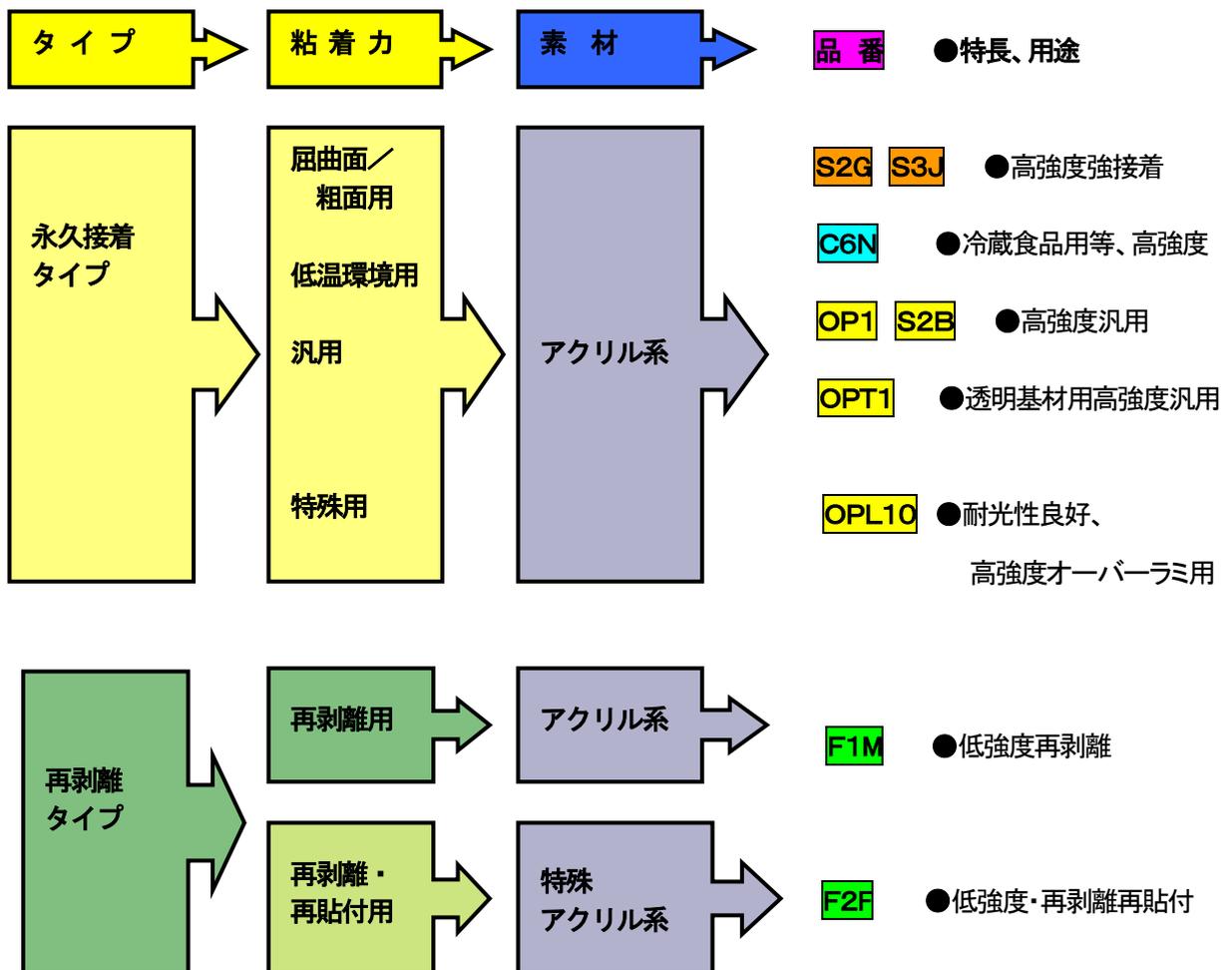
『OKタック』では、溶剤系粘着剤についても、粘着剤名の頭文字(アルファベット)で基本性能を表します。

溶剤系粘着剤は、粘着剤成分が有機溶剤に溶解されているため、粘着剤塗工後の乾燥工程で蒸発した有機溶剤の安全管理等が必要です。しかし、フィルム基材にエマルジョン系粘着剤を適用すると、これが水を媒体としているため、しばしばハジキやカスレが発生します。このため、フィルム基材に適用できるエマルジョン系粘着剤の開発が行われておりますが、粘着剤液の表面エネルギーが低く濡れ性に優れた溶剤系粘着剤が、今なお広くフィルム基材に使われております。

また、エマルジョン系粘着剤の性状が乳液であるのに対し、溶剤系粘着剤は溶液であるため、透明性に優れた粘着剤を得やすく、透明フィルムには、欠かせない粘着剤といえます。また、耐水性に優れるのも溶剤系粘着剤の特徴の一つです。フィルム基材に限らず耐水性が要求される場合に、紙基材でも使用される場合があります。溶剤系粘着剤も接着力により分類されますが、要求される品質に対応して種類は多岐にわたります。

溶剤系粘着剤主要銘柄

フィルム基材用粘着剤の主要銘柄と特長、用途を下図に示します。



溶剤系主要粘着剤の性能

| タイプ | | 各種被着体への接着性 | | | | 各種被着体からの再剥離性 | |
|------|----------|------------|-----|------|---------------|--------------------|------|
| | | 永久接着タイプ | | | | 再剥離タイプ | |
| 粘着力 | | 冷食 | 汎用 | | 汎用 オーバーラミ用 | ¹⁾ 再剥離用 | 再剥離用 |
| 品番 | | C6N | OP1 | OPT1 | OPL10 | F1M | F2F |
| 金属 | ステンレス | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| | アルミニウム | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| 成型体 | PE | ◎ | ◎ | △ | △ | △/○ | △/◎ |
| | PP | ◎ | ◎ | △ | △ | ○/○ | △/◎ |
| | ポリカーボネート | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| | アクリル | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| | ABS | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| | 硬質塩ビ | △ | △ | △ | △ | △/△ | △/△ |
| フィルム | PET | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| 紙 | コート紙 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △/△ | △/△ |
| | 段ボール | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △/△ | × |
| 木板 | ベニヤ板 | ○ | ○ | ○ | ○ | △/△ | × |
| | 化粧合板 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/○ |
| | メラミン塗装板 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |
| ガラス | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○/○ | △/◎ |

1) 再剥離糊の適正は、接着性/再剥離性を表します。

評価方法 ◎:適する ○:予備テスト必要 △:予備テスト必要 ×:不適

* 上記性能は、弊社における評価です。実際の使用に際しては、下記留意点を参考にお選び下さい。

粘着剤選定時の留意点

ラベル貼付時 (1) 何に貼るのか

①材質

②表面の状態(凹凸、曲面、汚染、水滴/結露)

(2) 貼る手段

①ラベラー、手貼り

(3) 貼付け時の環境条件

①温度、湿度

ラベル貼付後

(4) 永久接着か再剥離するか

①剥がすなら、その手段

(5) 貼付け後の環境条件

①温度、湿度(冷蔵庫、倉庫、熱・水がかかる、他)

②積み重ねる?

(6) 貼付け使用期間

①長時間、一時的

主要粘着剤の低温環境適性

| 被着体 | | | -20℃ | -5℃ | 5℃ | 23℃ | 結露面適性 |
|-----------------|-----|--------|------|-----|----|-----|-------|
| OP1 | SUS | 貼付温度領域 | | | | | — |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| OPT1 | SUS | 貼付温度領域 | | | | | — |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| S2G | SUS | 貼付温度領域 | | | | | — |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| S3J | SUS | 貼付温度領域 | | | | | — |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| C58 (エマルジョン) | SUS | 貼付温度領域 | | | | | ○ |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| C6N | SUS | 貼付温度領域 | | | | | ○ |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PE | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |
| | PET | 貼付温度領域 | | | | | |
| | | 保管温度領域 | | | | | |

※上記表は当社評価による使用環境の目安になります。性能や品質を保証するものではありませんのでご了承ください。

※貼付温度領域とは、各温度領域での貼付適性になります。

※保管温度領域とは、常温で貼付されたラベルの粘着力が保持できる温度領域です。

剥離紙の種類と特徴

剥離紙は、粘着剤を介して表面基材と貼合され、粘着剤面を保護するという重要なはたらきに加え、下記のような重要な役割が要求されます。

タック紙の剥離紙表面には、シリコン系の剥離剤が塗布されるのが一般的です。しかし、この剥離剤をできるだけ少量の塗布で剥離性能を発揮させるために剥離紙原紙の表面にポリエチレンラミネート層(以下 PE層)を形成して目止めをする方法が広く行なわれてきました。しかし、PE層は、温度による収縮が大きいため熱が加わるレーザープリンターやコピー用では問題がございました。このため、PE層に代わる目止め効果を樹脂や顔料塗工により発揮させる方法が定着してきました。

<剥離紙に要求される重要特性>

- ・ **カール性**: 特別の場合を除き、多くが表面基材と剥離紙は異質の材料で構成されます。表面基材と剥離紙は温度や湿度等の環境条件の違いにより伸縮挙動が異なります。伸縮挙動が大きく異なる場合、製造工程でせっかくフラットに管理しても環境条件の変化により大きくカールする結果となります。このため、用途などを考慮して適正な剥離紙を選定する必要があります。
特にカールコントロールを求められる場合には、剥離紙素材、層構成などに工夫をする必要があります。
- ・ **光電管適性**: ラベルの位置を光電管によって検知して自動貼付されるラベラーに使用される場合には、剥離紙は光電管の光を透過する必要があります。これを満たすために光透過性に優れたグラシン紙を剥離紙の原紙として用いるのが一般的です。
- ・ また、白い表面基材との識別を容易にするなどの理由から、お客様の要求に合った色の剥離紙が必要です。

剥離紙の種類

以上は、剥離紙に要求される性質の一部ですが、これだけでも剥離紙は広範におよぶことがわかります。以下は、4つの角度から分類できます。

☆ 剥離紙の素材から: 上質紙系、グラシン系

フィルム系: ポリエチレンテレフタレート(PET)、ポリプロピレン(PP)

☆ 剥離紙の色から : 白系、クリーム系、ブルー系

☆ 剥離紙の構成から: PE層無し(ダイレクト上質紙系・グラシン系)

片面ポリラミ(上質紙系、グラシン系)

両面ポリラミ(上質紙系)

片面ポリラミ裏樹脂塗工(上質紙系)

フィルム剥離紙

剥離紙の構成と特徴

『OKタック』では、剥離紙名の頭文字(アルファベット)で、剥離紙の構成および特徴を表します。以下に、主な剥離紙の構成および特徴を例示します。

| 品番 | タイプ | 特徴 | 構成 |
|-----|-------------------------------------|---|---------------------------------|
| U系 | 上質紙系・ダイレクト ex. U8C、U43W U43WE | 当社の主力商品の一つで、上質系の原紙上にバリアー層(目止め層)を形成し、ポリエチレンラミネート層を形成していないので、古紙として再生できます。また、耐熱性、カール特性が良好。主に紙タックの平判用途、OAラベル、NIP用、配送伝票等に最適です。 | シリコーン バリアー層 上質紙 |
| G系 | グラシン系・ダイレクト ex. G7B、G6W | 光透過性に優れたグラシンを原紙とし、ポリエチレンラミネート層を形成しないで剥離剤を塗工するタイプで、薄い紙厚・高い強度・高い硬度が特徴で、高速印刷・高速オートラベラーに適します。U系同様、古紙として再利用が可能です。 | シリコーン グラシン紙 |
| L系 | 上質紙系・ポリラミ ex. L7C | 上質系の原紙上にポリエチレンラミネート層を形成し剥離剤を塗工するタイプで、打ち抜き・粕取り等の作業性に優れ、巻き取り、平判の両方で広く使われています。 | シリコーン ポリラミ 上質紙 |
| G★系 | グラシン系・ポリラミ ex. GB80 | グラシンを原紙とし、ポリエチレンラミネート層を形成し剥離剤を塗工するタイプで、薄い紙厚・グラシン・ダイレクトタイプに優る高平滑・弾力性を持ち糊面平滑性が高いため、透明フィルム基材に適しています。 | シリコーン ポリラミ グラシン紙 |
| Y系 | 上質紙系・ポリラミ 裏面クレーコート ex. YW10 | 上質系・ポリラミタイプの原紙裏面にクレーコート層を形成するタイプで、打ち抜き・粕取り等の作業性とカール適性に優れ、主に平判のフィルムタック用剥離シートとして使われています。また、裏面印刷が可能です。 | シリコーン ポリラミ 上質紙 クレーコート層 |
| M系 | 上質紙系・両面ポリラミ ex. MW10 | 上質系・ポリラミタイプの原紙裏面にポリエチレンラミネート層を形成するタイプで、打ち抜き・粕取り等の作業性とカールに優れ、主に平判のフィルムタック用剥離シートとして使われています。 | シリコーン ポリラミ 上質紙 ポリラミ |
| T系等 | フィルム ex. T38 | フィルムタック用の剥離フィルムで、特に透明性が要求される用途に使われます。 | シリコーン フィルム |

問い合わせ先

| 部署名 | 住 所 | 電話番号 | FAX |
|----------------|---|--------------|--------------|
| タック営業部 (本社) | 〒104-0061 東京都中央区銀座 5-12-8 王子ホールディングス1号館2F | 03-3248-3560 | 03-3248-3477 |
| 大阪支店 | 〒660-8577 兵庫県尼崎市常光寺 4-3-1 | 06-6488-3800 | 06-6488-3912 |
| 名古屋支店 | 〒486-0945 愛知県春日井市勝川町 6-140 王子不動産勝川ビル 5 階 | 0568-27-8300 | 0568-27-8400 |
| 福岡支店 | 〒810-00017 福岡県福岡市中央区天神 3-6-36 黒田ビル 302 号 | 092-753-8631 | 092-763-8633 |

いくつかの構成例をご紹介しますが、お客様のご相談にお応え致しますので、

上記の営業部門へご遠慮なくお問い合わせ下さい。

